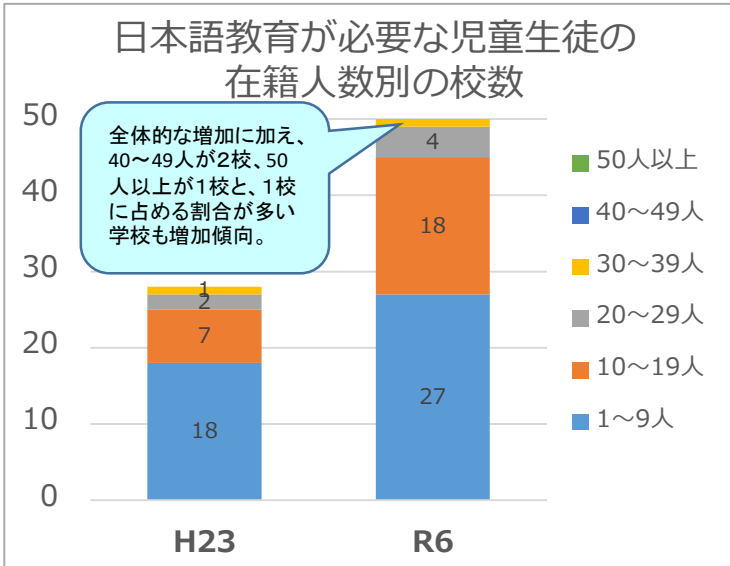
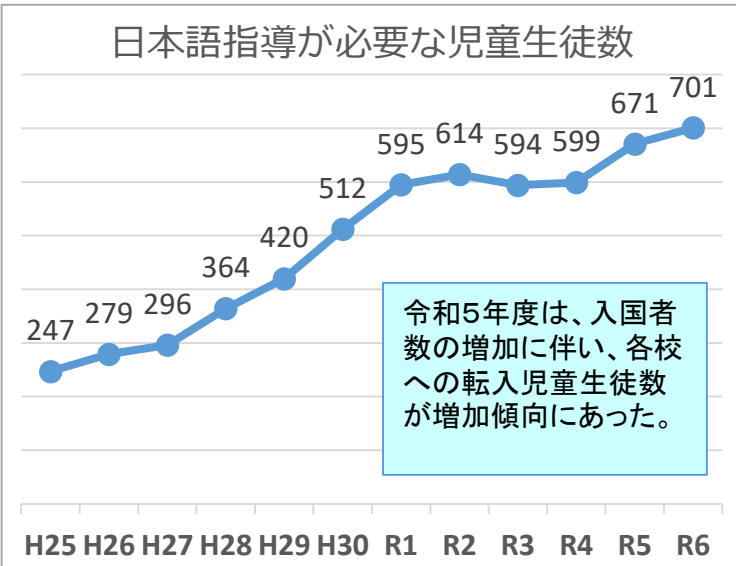


岡崎市の帰国・外国人児童生徒教育の概要

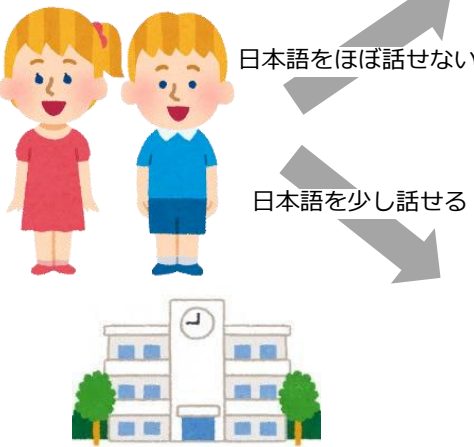
背景・目的

- 国際化の進展等に伴い、本市の公立小中学校における日本語指導が必要な児童生徒数は、**この10年で約2.8倍**となっている。
- 母語や文化的背景などの**多様化**が進んでいるほか、**集住化**や**散在化**も進んでいる。
- 日本語教育が必要な児童生徒が、日本語で学校生活を送り、学習に取り組めるようになるための、**日本語教育や生活適応相談を充実**させる。

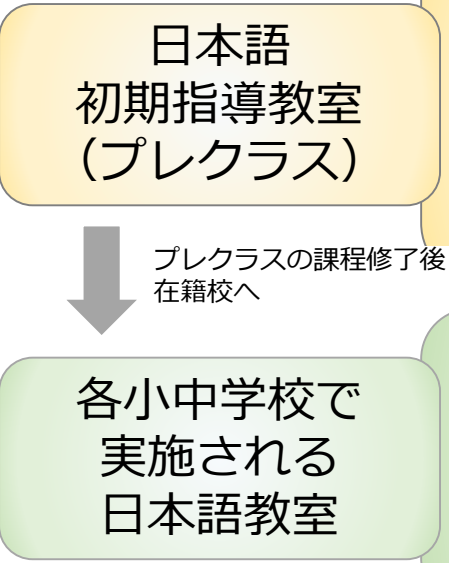


日本語能力に応じた支援体制

岡崎市の小中学校に通いたい！



日本語をほぼ話せない
日本語を少し話せる



- 学校生活に最低限必要な日本語、学校生活のきまり、生活習慣や日常会話などを、**一定期間(約3か月)集中的に学習**する。
- 対象学年は、**小学4年生から中学3年生まで**。
- 小学生クラス(令和2年度開設)と中学生クラス(令和元年度開設)がある。
- 週4日(月～木)通所**し、金曜日は在籍校に登校する。
- 室長1名、副室長1名、指導員2名、日本語教育講師4名(ポルトガル語2名、中国語1名、フィリピン語1名)

- 日本語で日常会話が十分にできない者、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている者等に対し、**通常授業から取り出したり、通常授業に入り込んだりして、日本語教育担当教員等が日本語指導**を行う。
- 日本語教育講師(ポルトガル語4名、中国語1名、フィリピン語2名)の派遣を希望する学校に、日本語教育講師を派遣する。
- 日本語教育講師は、当該校の日本語教育担当教員等の指導のサポート**をする。

- 【成果】
- 一人一人の日本語能力に応じた指導
 - 日本の学校生活に適応し、孤立化や不登校の防止
 - 学校の困り感の減少



- 【成果】
- 個に応じた日本語指導・指導体制の充実
 - 児童・保護者の不安軽減
 - 行事や懇談会での通訳、文書の翻訳の効率化